

あまさのひみつ

ゆうきしつじょうなんしゅうがつつづ

—ねん　とのさま　さくら

わたしは、しろいごはんがだいすきです。

がつこのきゅうしよくでは、いつもごはんがいちばんさいしまいなくなつてしまいます。ごはんは、よくかむとあまくなります。ペコペコのおなかにごはんがはいると、なんだかげんきがでてきます。「どうしてこんなにあまくなるんだろう」といつもふしぎにおもつ

ています。おかずはしょっぱいの、ごはんはあまいです。おこめをいごはんをたくおてつだいをしたことがあるけれど、さもうはいれませんでした。ふしぎでたまらなくなつたので、おこめをそだてているやまがたのじいちゃんに、でんわできいてみました。

「どうして、おこめはあまいの。」

「それはね、おこめのながのデンプンが、くちのなかのつばしまさると、あまくなるんだよ。」

「じいちゃん、なんでもおいしいおこめを
くれるの。」

「ひりょう、きれいなおみず、たいようのひかりをたっぷりあげて、こどもをそだてるようにたいせつにそだてているからだよ。」
「じいちゃん、わたしに死いねいにおしえてくれました。あまさのしょうたいは、デンプンとじいちゃんのをやさしいきもちだったのです。」

「じいちゃんからおくられてくるおこめが
ぞくみんなでたべたとき、いちばんおいしい
とおもいます。じいちゃんのをやさしいおまじ
ないのおかげで、みんなのおいしいきもちが
あつまっています。おとうさんもおかさんも、
おもしろもわたしも、いこいこしている
テーブルは、えいようのきんメダルができた
みたいですよ。みんながあらってくれるごはん
をじいちゃんがつくってくれて、うれしいな
とおもいます。こんでじいちゃんにあうとき
は、おいしかったよ。」とはなしたいです。